

事例11

「ぺたぺたアート」 (造形遊び)

ア、題材のねらい

- ・身近な長靴を使った足跡の模様や色のおもしろさに関心を持ち，手作りのサンダルの模様に思いをふくらませ，自分なりの表し方で体全体を使って楽しい造形活動をする。

イ、題材の評価規準

- ・身近にある長靴や自分で作ったサンダルの足跡の模様のおもしろさや色の美しさに関心を持ち，体全体の感覚を働かせながら自分らしい工夫をしようとする。
(ア関心・意欲・態度)
- ・活動しながら思いをふくらませ，自分らしい表し方を見つけたり考えたりする。
(イ発想や構想の能力)
- ・もっと楽しくなるように思いついた足跡の付け方を試したり，体全体を思いのままに働かせる。
(ウ創造的な技能)
- ・作品の色や形のおもしろさなどについて気づいたことを話す。
(エ鑑賞の能力)

ウ、実践対象と材料・日程

第1学年児童9名・第2学年児童10名

絵の具・絵の具皿・長靴・紙のサンダル・スチレンボード・両面テープ・大きな布

平成17年5月18日(水) 1:00~2:30

エ、実践に当たって

- ・午前中の鑑賞により，造形作品への関心が高まり，自分自身の創作活動への意欲も高まってきていると思われるので，その気持ちを大切に午後の活動へつなげていきたいと考えている。
- ・鑑賞作品の中にあつたブーツで踏んで跡をつける活動を取り入れ，長靴や手作りのオリジナルサンダルで跡をつけるという未経験の活動を計画し，意欲を持続させたい。
- ・美術館のよさを生かし図工室のない本校ではなかなか準備しきれない大きな布を用意することで，やってみたいという気持ちを刺激しどの児童も全身を使って思い切り造形活動を楽しめるようにしたいと考える。
- ・学芸員さんと事前に児童の実態や学校のねらい・美術館のねらいを話し合い，流れや支援の方法を共通理解して臨む。

オ、学習活動の展開 (1時間30分)

時間	主な学習活動	評価規準 (評価方法)	教師の支援
10分	・どんな活動をするか知る。 ・絵の具や長靴の使い方や約束等を知る。	関：活動への期待や意欲を持つ。 (発言・表情)	
60分	・長靴で色とりどりの足跡を付けて楽しむ。(一人で・みんなで)	関：材料に進んで関わって楽しんでいる。 (表情・発言・行動)	・どの子も色を付けて踏んだ感触や自分の付けた足跡を楽しめるように最初

	<ul style="list-style-type: none"> 紙のサンダルの裏にスチレンボードを切り貼りし、自分だけの足跡の模様を楽しむ。 	<p>発：活動しながら色や形のおもしろさなどに気づき、さらにしてみたいことを思いつく。（発言・行動）</p> <p>創：思いついた方法を試したり、全身を使って思いのままに表したりしている。（発言・行動・表情）</p>	<p>は一人ずつの活動を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動が停滞気味の児童には、思いを聞き、友だちの活動を見せたり、切り貼りの手助けをしたりする。
20分	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気に入った部分を見つける。 	<p>鑑：様々な色や色の重なり的美しさや形のおもしろさなどを感しているか。（発言・表情）</p>	<ul style="list-style-type: none"> よさを認める声がけをする。
15分	<ul style="list-style-type: none"> 道具や足，手をきれいに洗う。 		

カ，活動の様子

長靴の活動



オリジナルサンダルの活動



- ・絵の具を靴につけて遊ぶ経験は初めてなのでとても喜んだ。
- ・工夫例としては、片足ずつ違う色を付ける子，ケンケンで跳んでみる子，両足ジャンプする子，回転してみる子，繰り返しのリズムを楽しむ子が見られた。
- ・「まだやってみたい」と言っていた。
- ・「次は自分たちで足の裏の模様を作ってみよう。」の声がけで「やったあ。」と興味を持って取り組む。30分くらい自分の靴の模様作りに熱中する。両面テープの使い方に慣れて楽しかった様子。こだわりが出てきて1年生もすごい集中力。まだまだ作りたい様子。
- ・自分のサンダルに絵の具をつけて何度も歩く。歩いたり走ったりする行為を楽しむ。「後ろを見て。」と声を掛けると，振り返って自分の足跡を見る・友だちのとからまって色が交ざってくるのを楽しむ。もっとやりたがる。
- ・気に入った部分を紹介する。



- ・サンダル自体の色もきれいに染まったことに気づき、持って帰りたいと持ち帰る。

キ、考察

・午前中に自由な雰囲気作品を鑑賞し、午後は鑑賞したことと関連の強い履き物アートという活動を意図的に計画したことで、活動意欲が高まったと感じた。1年生も集中して活動でき、まだまだ活動したそうであった。鑑賞した作品を思い起こしながら表現していたと思う。靴という日常品を使って活動したことで、鑑賞の時に感じた何を使ってもよいという表現の自由や美しいと自分なりに感じた部分が活動につながっていたと思う。

・サンダルを手直ししながら活動できたら、個々の工夫が広がったと思われる。そのためには時間的にもう少しゆとりが必要であった。

・後日、放課後遊んでいて砂場で靴の後をくらべる姿が見られた。靴の裏も実に様々な模様があることに気づいていた。

・今回は評価規準に照らし合わせながら個々のつぶやきや動きに注目して記録するように教師は心がけた。また、活動後に感想を聞き、帰ってから感想を書き自己評価とした。次回は、活動時に観点別の評価カードを持って記録し、評価規準Cの子どもの姿を中心に見て、より効果的な評価を試み支援に生かしたいと考える。